

[様式 3]

合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート (中間評価)

評価実施年月：平成 29 年 1 月

1. 対象事業	大阪府合流式下水道緊急改善事業 ・猪名川流域下水道下水道原田処理区 ・安威川流域下水道下水道中央処理区 ・淀川右岸流域下水道高槻処理区 ・寝屋川北部流域下水道鴻池処理区 ・寝屋川南部流域下水道川俣処理区																		
2. 実施主体名称	大阪府																		
3. 計画期間	平成 17 年度～平成 35 年度																		
4. 対象事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水滞水池を整備 (前島ポンプ場他) ・ポンプ場雨水沈砂池のドライ化を実施 (氷野ポンプ場他) ・浸水対策事業で整備した増補幹線を渇水期限定で合流改善用の貯留施設として活用 (太平集水区他) ・分流化及び分流区域の切り離しの実施 (なわて水みらいセンターの整備他) 																		
5. 目標の達成状況と達成の見通し	<p>目標に対する達成状況 ※5 処理区合計値 (計画ベース)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>対策前 (対策未実施)</th> <th>平成 27 年度末 (現況)</th> <th>計画目標 (最終)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汚濁負荷量の削減 (年間負荷量削減率)</td> <td>0% (0t/865.3t)</td> <td>51% (442.0t/865.3t)</td> <td>100% (865.3t/865.3t)</td> </tr> <tr> <td>公衆衛生上の安全確保 (年間放流回数削減率)</td> <td>0% (0回/943回)</td> <td>40% (374回/943回)</td> <td>100% (943回/943回)</td> </tr> <tr> <td>夾雑物の削減 (対策率)</td> <td>0% (0箇所/38箇所)</td> <td>16% (6箇所/38箇所)</td> <td>100% (38箇所/38箇所)</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	対策前 (対策未実施)	平成 27 年度末 (現況)	計画目標 (最終)	汚濁負荷量の削減 (年間負荷量削減率)	0% (0t/865.3t)	51% (442.0t/865.3t)	100% (865.3t/865.3t)	公衆衛生上の安全確保 (年間放流回数削減率)	0% (0回/943回)	40% (374回/943回)	100% (943回/943回)	夾雑物の削減 (対策率)	0% (0箇所/38箇所)	16% (6箇所/38箇所)	100% (38箇所/38箇所)
区 分	対策前 (対策未実施)	平成 27 年度末 (現況)	計画目標 (最終)																
汚濁負荷量の削減 (年間負荷量削減率)	0% (0t/865.3t)	51% (442.0t/865.3t)	100% (865.3t/865.3t)																
公衆衛生上の安全確保 (年間放流回数削減率)	0% (0回/943回)	40% (374回/943回)	100% (943回/943回)																
夾雑物の削減 (対策率)	0% (0箇所/38箇所)	16% (6箇所/38箇所)	100% (38箇所/38箇所)																
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・法定基準の雨天時放流水質について達成していることを確認 ・汚濁負荷量 (BOD) 削減効果について、対策を行った機場において雨天時モニタリング調査を行い、その結果を踏まえて、排出負荷量が削減できていることを確認 ・未処理放流回数について、対策の進捗状況を確認するとともに、実際の放流回数の調査により削減効果を確認 ・夾雑物対策について、スクリーン設置状況やしきの年間処分量の推移等により、夾雑物除去状況を確認 ・合流改善事業の費用便益効果を試算し、いずれの流域も B/C が 1.0 を上回っていることを確認 ・合流改善事業のわかりやすい効果の示し方の例を検討 <p>※第三者委員で構成するアドバイザー会議 (大阪府合流式下水道改善事業評価審議会) にて報告</p>																		
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存土木施設を最大限活用した対策として、ポンプ場の雨水沈砂池の改造 (ドライ化) や水処理施設最初沈殿池の空池を滞水池化する対策等を積極的に導入 ・浸水対策事業で整備した増補幹線において、渇水期に限定して、合流改善の貯留施設として活用 																		
8. 今後の方針	<p>平成 26 年度以降の雨天時放流水質の測定結果については法定基準を達成している。今後も計画目標の達成に向けて、引き続き事業を実施していくとともに、住民への啓発活動等のソフト対策を継続的に実施することで、合流式下水道の改善に努める。</p>																		